

松山 倫政

千葉県



認定 NPO 法人
日本ブルキナファソ友好協会
理事長

アフリカのブルキナファソ国は、マリ、ニジェール、ガーナ等6カ国に囲まれた西アフリカの内陆に位置する。海外青年協力隊も入っていない国へ平成7年に横浜で「日本ブルキナファソ友好協会」を設立。小学校建設6校、井戸30基、診療所5カ所、学校用机とイス5,700セット等、教育、医療、保健衛生等の分野へ20年近くにわたり支援を続けている。

(推薦者：公益財団法人 社会貢献支援財団)

平成24年度社会貢献者表彰の授賞に際し、とても名誉なことと思っております。今回は、私が代表する形で受賞いただきましたが、日本ブルキナファソ友好協会のメンバー及び応援してくださっている方々全員での受賞と思っております。

世界で最貧国といわれているブルキナファソ、しかしアフリカ56カ国の中でこの国だけが争いがなく、日本よりも治安が良いというのは国民性なのでしょう。貧困で生活環境が苦しくても、いつも我々を笑顔で迎え入れもてなしてくれます。

私が最初にブルキナファソを訪れたのは42年前、オートボルタ（旧国名）の時代にさかのぼります。

ブルキナファソは、「もてなしの国」といわれているとおり、その当時でも、私は多くの人たちから暖かい歓迎を受けました。経済大国と引き換えに失ってしまった日本人の美しい心を、我々はブルキナファソで見つけることができるのです。

3年に及ぶバックパッカー生活、途上国の方々には大変お世話になりました。その恩返しがしたいという一念から、1995年に日本ブルキナファソ友好協会を横浜市で立ち上げ、1999年には神奈川県で最初の NPO 法人として登記しました。また、2001年には本部を千葉県白井市に移し活動の場を広げ、児童たちと共にネリカミの稲作を開始しました。さらに2004年には、運営組織及び事業活動が適正であることから国税庁長官より全国で13番目（千葉県では最初）の認定 NPO 法人として認定されました。2014年には、名誉会長としてフランソワ・ウビダ駐日特命全権大使が就任するなど、両国間の絆はより一層深いものになっています。

協会設立以来、日本とブルキナファソの懸け橋になるよう、青年海外協力隊も入っていないブルキナファソでの活動を続け、教育、医療、保健衛生、農業の分野で、これまでに小学校6校、ポンプ式深井戸31基、診療所5カ所、ネリカミの稲作、日本で